

『清語易言』の漢語語彙(3)

竹越 孝

(承前)

6.5 補語

6.5.1 方向

“起”

“起”は1例用いられており、空間的な意味で使われる。

特に補語としての“起”に対応する満洲語はない。

- (1) 猛然跣起告訴(11a3)〈ilifi〉

“出”

“出”は1例用いられている。

満洲語では動詞 *tucimbi* (出す, 表す) に対応するが、先行する動詞に対応する語がない。

- (1) 亦次寫出(14a3)〈tucibuhe〉

“過”

一般には動態助詞もしくは動詞接尾辞のカテゴリーに属するものだが、本節で取り上げる。

“過”は19例用いられている。先行する動詞は“告訴”が15例, “説”が2例, “讀”が1例。形式面では、後に“的”を伴って“的”フレーズを構成するものが12例あるほか、満洲語の固定フレーズの訳として単独で用いられるものが2例ある。

満洲語では、“的”フレーズの場合すべて連体過去形の *-ha/he/ho* に名詞化語尾 *-ngge* が付属した *-hangge/hengge* (～したこと, ～したもの) の形に対応する。それ以外の例では、*-ha/he/ho* に対応するものが3例、その後には *bihe* を伴う *-ha bihe* (～していた) の形に対応するものが1例、連体未来形の *-ra/re/ro* に *babi* が後続する *-ra babi* (～するところがある, ～することがある) の形に対応するものが1例ある。

- (1) 告訴過的什麼原故(6a6-6b1)〈alahangge〉

- (2) 或者告訴過的不是 (8b1) 〈alahangge〉
- (3) 口内講說過的 (23b3) 〈gisurehengge〉
- (4) 告訴過加着又告訴 (8b4) 〈alaha〉
- (5) 這一向若是告訴過 (10a2) 〈alaha bihe〉
- (6) 莫非告訴過來着麼 (11b1) 〈alaha〉
- (7) 阿哥讀過書麼 (4a1) 〈hūlara babio〉
- (8) 雖說過等字 (16a3) 〈sehe seme〉
- (9) 來着過 (16a5) 〈bihe bici〉

上の(6)を“V過來着”の形として見た場合、対応する満洲語は(5)と同じ -ha bihe になる。(8)は *sehe seme* (言ったとしても)、(9)は *bihe bici* (あったとしても) という固定フレーズの訳語として用いられた例である。

“住”

“住”は1例用いられており、可能補語“V得住”の形を取る。特に補語としての“住”に対応する満洲語はない。

- (1) 告訴瞞得住麼 (6b3) 〈endereo〉

“來”

補語としての“來”は3例用いられており、うち1例は“V得來”の形を取る。

満洲語では、“V來”の2例は動詞語幹形成接尾辞 -nji (～しに来る、～しながら来る)に対応し、“V得來”の1例は可能を表す -me mutembi (～することができる)の形に対応している。

- (1) 如今告訴來 (4b4) 〈alanjimbi〉
- (2) 調轉着說得來 (11b5) 〈gisurere mutembikai〉

なお、“來V”の形も1例用いられており、“V來”の場合と同じく -nju (命令形の場合 -nju)に対応する。

- (3) 這里來告訴 (4b3) 〈alanju〉

“去”

補語としての“去”は4例用いられており、うち2例は“趕V去”の形を取る。

満洲語では、動詞語幹形成接尾辞 -na/ne/no (～しに行く、～しながら行く)に対応するものが3例、同じく語幹形成接尾辞で使役の意味を持つ

とおぼしい -nggi (～しに行かせる) に対応するものが 1 例である。

- (1) 現今告訴去 (4b3-4) 〈alanambi〉
- (2) 往那里告訴去 (4b4) 〈alanggimbi〉
- (3) 趕告訴去什麼時候了 (11a2) 〈alanatala〉

なお、“去 V” の形も 1 例用いられ、“V 去” の場合と同じく -na に対応する。

- (4) 那里去告訴 (4b3) 〈alana〉

6.5.2 動態

“着”

一般には助詞もしくは動詞接尾辞のカテゴリーに属するものだが、本節で扱うこととする。

“着” は 13 例用いられ、うち後に動詞句を伴うものが 11 例ある。

満洲語では、連用不定形の -me に対応するものが 4 例、連用持続形の一つと思われる -tai/tei に対応するものが 2 例、終止現在形の -mbi に対応するものが 1 例あるほか、副詞化語尾として働く -i に対応するものも 2 例ある。

- (1) 調轉着説給聽 (4b2) 〈forgošome〉
- (2) 恐提着告訴 (5b6) 〈jombume〉
- (3) 壓派着叫告訴麼 (7a1-2) 〈ergeletei〉
- (4) 泡着 (22b2) 〈ebembi〉
- (5) 傳遞着告訴 (7b3) 〈ulan ulan i〉

他は既に語彙化していると思われる例で、2 例ある“加着”は副詞 dade (かつ、更に)、“背着”は副詞 enggici (背後で、後ろから)、“由着”は副詞 cihai (任意に、思うまま) が対応する。

- (6) 加着 (16a5) 〈dade〉
- (7) 背着告訴了 (7b6) 〈enggici〉
- (8) 由着告訴吧 (5a5) 〈cihai〉

(6) は単独で用いられた例であり、dade と“加着”が等価と認識されていたことを示すものであろう。

“了”

文末助詞としての“了”についても本節で扱うこととする。

“了”は 70 例用いられている。うち“V 了”の形 (形容詞の場合も含む) が 50 例、後に数量を伴う“V 了 C”の形が 3 例、否定の“不 V 了”

の形が3例、名詞句が述語になる“(是) NP 了”の形が2例、名詞性の目的語を伴う“VO 了”と“V 了 O 了”の形が各1例、“的”フレーズを作る“V 了的”の形が1例である。その他、満洲語における種々の表現の訳語として単独で用いられたものが8例ある。

満洲語では、ほぼすべての例が連体過去形の -ha/he/ho に対応している。

“V 了”の場合、形容詞に動詞 ombi (なる, できる) の過去形 oho が後続する1例を除く49例が -ha/he/ho に対応している。“V 了 C”の場合、-ha に対応するものが2例、-hangge に対応するものが1例。“不 V 了”の例はいずれも“不好了”であるが、形容詞 fajuma (おかしい, だめだ) に対応するものが2例、ehe oho (悪くなった) に対応するものが1例。“(是) NP 了”の場合、-ha に対応するものと oho に対応するものが各1例。“VO 了”と“V 了 O 了”はいずれも -ha, “V 了的”は -hangge に対応する。

- (1) 纔告訴了麼 (4b4) <alahao>
- (2) 將纔告訴了 (4b4-5) <alaha>
- (3) 若告訴了不的了 (7a2) <emekei oho>
- (4) 告訴了好些 (6b5-6) <alaha>
- (5) 告訴了半截兒 (9b3-4) <alahangge>
- (6) 若告訴不好了 (6a3) <fajuma>
- (7) 告訴愈發不好了 (9b5) <ehe oho>
- (8) 竟不告訴是怎麼了 (5b1) <ainaha>
- (9) 趕告訴去什麼時候了 (11a2) <erin oho>
- (10) 我念完十二個頭兒了 (4a3-4) <wajiha>
- (11) 告訴將完生了氣了 (11a1) <jili banjiha>
- (12) 告訴了的如何 (6b1) <alahangge>

以下はすべて満洲語の用法について解説した部分で訳語として用いられた例であるが、いずれも -ha/he/ho ないしは oho と関連付けられている。

- (13) 了時 (16a3) <hade>
- (14) 了節 (16a4) <hede>
- (15) 了時候 (16a4) <ohode>
- (16) 乃接話未完之了意 (18a3) <oho>
- (17) 俱已然了的之意 (19a5) <ohongge>
- (18) 了的麼之間意 (19a6) <ohonggeo>
- (19) 已了之意 (19a6) <oho>
- (20) 俱了麼之間意 (19b1) <ohoo>

上の例は、それぞれの満洲語と“了”を使った表現が等価と認識されて

いたことを示すものであろう。

“畢了”

“畢了”が4例用いられており，うち3例は動詞に後置して“V畢了”の形を作り，1例は単独で用いられる。

満洲語では，終止完了形の *-habi/hebi/hobi* に対応するものが3例，*oho* に対応するものが1例ある。

- (1) 各項皆告訴畢了 (4b5) 〈alahabi〉
- (2) 告訴過的停畢了 (9b2) 〈en jen i oho〉
- (3) 俱是畢了之意 (19b5) 〈wajihabi〉

(3) は単独で用いられた例であり，*wajihabi* と“畢了”が等価と認識されていたことを示すものであろう。

6.5.3 可能

“V得”

太田 (1958 : 229) でいう A 式にあたる“V得”の形が10例用いられている。うち“記得”が4例，“曉得”が3例ある。形式面では，否定の“不V得”が1例ある。

いずれもすでに語彙化していると思われ，満洲語で可能表現が対応する例はない。“記得”の場合，終止完了形の *-hebi* に対応するものが2例，連体過去形の *-he* に対応するものが2例ある。

- (1) 阿哥你所學的話都記得麼 (4a5) 〈ejehebio〉
- (2) 果然記得 (4a6) 〈ejehe〉
- (3) 我畧不曉得這個 (12a4) 〈ulhirakū〉
- (4) 阿哥你都曉得麼 (12a4) 〈ulhimbio〉
- (5) 還告訴得 (9a5) 〈alaha bade〉
- (6) 查得之下用 (16b5) 〈baicaci〉
- (7) 聞得之下用 (16b6) 〈donjici〉

(6) (7) も条件形 *-ci* が対応しているので，すでに語彙化している例と見なすことができる。

“V不的”

A 式の否定にあたる“V不得”は“V不的”の形で1例用いられているが，固定的な表現と言える。

満洲語では，“了不的”で感嘆詞 *emekei* (恐ろしい，何とまあ) に対応

する。

- (1) 若告訴了不的了 (7a2) 〈emekei〉

“V 得 C”

太田 (1958 : 229) でいう B 式, 即ち動詞性の補語を伴う “V 得 C” の形が 2 例用いられている。

満洲語では, 一つの動詞に対応するものが 1 例, 動詞の不定形 -me に mutembi が後続して可能を表す形に対応するものが 1 例である。

- (1) 告訴瞞得住麼 (6b3) 〈endereo〉
- (2) 亦能照此調轉着説得來 (11b4-5) 〈gisureme mutembikai〉

6.5.4 対象・場所

“給”

動詞の後に “給” を伴う形は 3 例用いられており, いずれも先行する動詞は “説”, 後続するのは対象ではなく動詞の “聽” である。

満洲語では, いずれも動詞 donjimbi (聞く) に使役を作る語幹形成接尾辞 -bu がついた donjibumbi (聞かせる) が対応している。

- (1) 求畧説給聽聽 (4b1) 〈donjibureo〉
- (2) 也可説給聽麼 (21b6) 〈donjibuci〉

ここでの “給” の用法は対象を導くことではなく, 使役の形を作ることであると認められる。

“到”

動詞の後に “到” を伴う形は 1 例用いられているが, 固定的な表現である。

満洲語では, 指示副詞 ertele (これまで) が対応している。

- (1) 至到此時没告訴麼 (4b6) 〈ertele〉

“在”

動詞の後に “在” を伴う形は 8 例用いられている。うち先行する動詞は “用” が 5 例, “寫” が 2 例である。

満洲語では, “在與後” (“與” = “於”) の場合に副詞 amala (後ろに, 後方に) に対応するほかは, すべて与位格の -de に対応している。

- (1) 將原話寫在與後 (21b3) 〈amala〉
- (2) 不可提寫在行首 (21b4) 〈jurgan i ujude〉

- (3) 用在話首 (24b2) 〈gisun i ujude〉
- (4) 不用在話首 (28a4) 〈gisun i ujude〉
- (5) 靠在所指處言去習慣已後 (29a6) 〈joriha bade〉

6.6 兼語動詞

“叫”

使役の“叫”は7例用いられている。いずれも動詞の“告訴”に前置し、兼語を持たない。

満洲語では、1例のみゼロ語尾で命令形となるものに対応するのを除けば、すべて使役を作る動詞語幹形成接尾辞 **-bu** に対応している。

- (1) 叫告訴 (4b3) 〈ala〉
- (2) 到底叫告訴麼 (6b4) 〈alabumbio〉
- (3) 執意叫告訴 (6b4) 〈alabumbi〉

“教”

使役の“教”は2例用いられているが、いずれも動詞に前置し、兼語を持たない。

満洲語では、いずれも使役を作る動詞語幹形成接尾辞 **-bu** に対応している。

- (1) 直不教告訴 (5a4) 〈alaburakū〉
- (2) 仍待多學者教正 (23b4) 〈tuwancihiyabukini〉

なお、“教令”が2例用いられており、いずれも単独で用いられる。

満洲語では、動詞 **ombi** の命令形 **oso** (なれ, あれ) に対応する。

- (3) 乃教令之意 (18b1) 〈oso〉

“被”

被動の“被”は2例用いられ、兼語は“別人”と“人”である。

満洲語では、いずれも受身文で動作主をマークする与位格の **-de** に対応する。

- (1) 被別人告訴了 (5a4) 〈weri de〉
- (2) 上有得字是被人作弄之意 (18b1) 〈niyalma de〉

7. 介詞

7.1 所在

“在”

“在”は7例用いられており、うち1例は単独で用いられる。

満洲語では、“在～下”で名詞 *fejergi* (下, 下方) に対応するものが1例あるほかは、すべて与位格語尾の *-de* に対応している。

- (1) 満洲話内若在第五個頭兒字下 (12a6-12b1) 〈*fejergi*〉
- (2) 在第四個頭兒字下用 (18b6) 〈*fejergide*〉
- (3) 則在嚙上吞説之音 (24a1) 〈*bilha de*〉
- (4) 在第二末了用 (18a5) 〈*wajima de*〉
- (5) 在 (16a4) 〈*de*〉

(5) は単独で用いられた例であり、与位格語尾 *-de* と“在”が等価と認識されていたことを示すものであろう。

“於”

“於”は4例用いられ、うち3例は“於～一同”の形を取る。

満洲語では、“於～一同”の場合、形容詞 *adali* (同じ, ~ような) と呼応する属格の *-i* に対応し、それ以外の1例は与位格語尾 *-de* に対応している。

- (1) 於他話亦能照此調轉着説得來 (11b4-5) 〈*gisun de*〉
- (2) 於阿哦衣握五字一同 (28a4) 〈*i adali*〉

7.2 起点

“從”

“從”は16例用いられ、うち2例は単独で用いられている。

満洲語では、奪格語尾 *-ci* に対応するものが13例、沿格語尾 *-deri* に対応するものが2例、また文語の用法である“何從”の形に疑問代名詞 *aibi* (どこ) に対応するものが1例ある。

- (1) 阿呀則從口中吐説之音 (23b6) 〈*angga ci*〉
- (2) 則從舌尖吐説之音 (24a3) 〈*ilenggui dube ci*〉
- (3) 若從 (16a4) 〈*ci*〉
- (4) 從那里告訴來了 (9a2) 〈*ya deri*〉
- (5) 乃若第幾從由 (18a5) 〈*deri*〉
- (6) 何從告訴了 (5a6) 〈*aibi*〉

(3) と (5) は単独で用いられた例であるが、(3) は“若”もしくは“從”の意味で *-ci* に対応させ、(5) は“從由”を一語として *-deri* に対応させたものと見られる。

7.3 方向

“向”

“向”は3例用いられ、うち2例は単独で用いられている。

満洲語では、いずれも接続後置詞 baru (～に向かって) に対応する。

(1) 向誰告訴 (7b1) 〈wei baru〉

(2) 向 (17b3) 〈baru〉

(2) が単独の例であり、baru と“向”が等価と認識されていたことをしめすものであろう。

“往”

“往”は1例用いられている。

満洲語では、“往那里”の形で疑問代名詞 aibide (どこに、どこで) に対応している。

(1) 往那里告訴去 (4b4) 〈aibide〉

7.4 到達

“赶”

“赶”は1例用いられており、後に動詞句を伴う。

満洲語では、連用終点形 -tala/tele/tolo に対応している。

(1) 赶告訴去什麼時候了 (11a2) 〈alanatala〉

7.5 經由

“順”

“順”は3例用いられており、うち1例は名詞、2例は動詞を伴う。

満洲語では、いずれも接続後置詞 ici (～に応じて、～のままに) に対応している。

(1) 順口演熟而後 (11b4) 〈anggai ici〉

(2) 俱是順用順作之意 (21a3-4) 〈baitalara ici obura ici〉

7.6 原因

“因”

“因”は4例用いられており、いずれも名詞を伴う。

満洲語では、いずれも ombi の先行形に由来する接続後置詞 ofi (～なので、～だから) に対応している。

- (1) 皆因陽韻 (24b1) 〈ofi〉
- (2) 皆因陰韻 (25a3) 〈ofi〉

7.7 目的

“爲”

“爲”は1例用いられており、動詞を伴う。

満洲語では、接続後置詞 *jalin* (～によって、～のために) に対応している。

- (1) 爲告訴 (6a1) 〈*jalin*〉

7.8 代替

“替”

“替”は1例用いられており、動詞を伴う。

満洲語では、接続後置詞 *funde* (～に替わって、～の替わりに) に対応している。

- (1) 求替告訴 (6b3) 〈*funde*〉

7.9 材料・用具

“拿”

“拿”は1例用いられており、名詞を伴う。

満洲語では、動詞 *jafambi* (取る、つかむ) の先行形 *jafafi* に対応している。

- (1) 獨拿頭一個頭兒字上講 (23b5) 〈*jafafi*〉

これによれば、“拿”が文法化していないことが窺われる。

7.10 処置

“把”

“把”は43例用いられており、名詞性の成分を伴うものが42例、単独で用いられるものが1例である。

満洲語では、単独で用いられた1例が *obumbi* (なす、する) の命令形に対応するのを除き、すべて対格語尾の *-be* に対応している。

- (1) 我把告訴的一句話 (4b2) 〈*be*〉
- (2) 把碎雜的告訴了 (8a2) 〈*be*〉
- (3) 把哥說哦 (12b2) 〈*be*〉
- (4) 乃把將 (18a2) 〈*obu*〉

(4) は“把”もしくは“將”の意味で *obu* に対応させたものと見られる。

“將”

“將”は1例用いられている。

満洲語では、対格語尾 *-be* に対応している。

- (1) 將原話寫在與後 (21b3) 〈*be*〉

7.11 依拠

“照”

“照”は3例用いられており、うち“照此”の形が2例ある。

満洲語では、“照此”の場合接続後置詞 *songkoi* (～のままに, ～に照らして) に対応し、他の1例は対格語尾 *-be* に対応する。

- (1) 亦能照此調轉着說得來 (11b4-5) 〈*songkoi*〉
- (2) 還可照原字韻說者 (13b6) 〈*mudan be*〉

(待続)